

# 知っていますか？ 郷土の民話

## 普門寺のお葉つき銀杏

今月は、普門寺の銀杏の木にまつわるお話です。樹齢320年のこの銀杏の木は、今年の2月に県指定文化財に指定されました。これは、「お葉つき」、「ラツパ」、「斑入り」といった珍しい特徴が見られるからです。そして、この珍しい木に関する伝説が、現在まで受け継がれているのです。

今から500年以上前の文明年間、上三川城主の横田綱親つなちかは、ある晩夢を見ました。それは、敵の大将と一騎討ちの末、命を落とすものでした。夢から覚めた綱親は、自分の行く末を見た気がして震え上がりました。戦国時代のこの頃、各地で合戦が繰り広げられ、綱親も古河公方こがほうの命を受けた主君の宇都宮正綱とともに、各地を転戦していましたので、正夢になるのではと考えると心細くなりました。

ちようどの頃、上三川城では、夜更けになると銀杏がうめき声をあげて泣くとの噂がたつたり、城中にも不思議なことがおこり、人々の不安がつのり、綱親も不安な日々を過ごしていました。そんなある日、上三川に信俊しんしゅんという僧が訪れ、人々に慈悲を施していることが、綱親の耳に届きました。綱親は信俊を呼び、銀杏の木を供養しよう命じると、承知した信俊は供養をし、銀杏を切り倒しました。すると中から三百数十匹の大蛇が嬉しそうにぞろぞろと出て

きて、姿を消しました。そして、これを境に、異変が途絶えたので、綱親は信俊に命じて、銀杏の木のあったところを切り開き、数々の戦士の死者を弔うために普門寺を建立しました。それから5年後、綱親は古河公方足利成氏しげうじの命令で、主君宇都宮正綱とともに上州川曲に出陣し、敵の豪傑上杉憲忠のりたかと一騎打ちの勝負をしました。敵の豪傑に見た夢の通り、無念の最期を遂げました。上三川の人々はいよいよ悲しみ、綱親を丁重に葬りました。

この後、以前切り倒した銀杏の切り株から出た芽が成長し、その葉先に実がなる珍しい銀杏が育ちました。人々は葉先に実がなるということとは、綱親が極楽の世界に生きており、信俊和尚も見守っているのだと考え、この銀杏を「お葉つき銀杏」と呼ぶようになりました。その後、枝の付け根から、多くのコブが垂れ下がり、この銀杏に願をかけると子宝が授けられ、丈夫な子どもが育つという評判がたち、「子育て銀杏」とも呼び、参詣者が後を絶たなかったということです。



普門寺の銀杏

# 広報俳句

背番号貫ふ新人五月晴れ

浜野 正男

物干しに色のあつまる梅雨晴間

大八木喜重郎

青葉の香朝の大きに漂へり

柳田 石村

急げども方向音痴蝸牛

蓬田 四方

血圧を下げる若葉の風通る

伊沢 静香

香りよく夜目にも白く梔子の花

濱野 マス子

千切りのキャベツのリズム確かなり

阿部 信子

万緑の名木榎の刀瘡

野沢 花枝

蛍袋溜息ひとつこぼしけり

上野 キミエ

腕白の坊主頭や夏来る

武井 ミイ子

